

# 郷土の会だより

発行責任者  
岡村昭則

ウォーキングサークル

## 草加宿 (8月31日)

天谷 範夫

観光センターでパンフレットをもらう為、少々早目に東武草加駅に着いた。既にかなり暑い。今日は、参加者が少ないかなと、気になるが、10時30分の集合時間には、私を含め9名が集合。草加駅東口から少し南側に歩き、旧道草加宿入り口にあたる浅古家の地藏堂、浅古正三家、草加神社石柱等を見ながら、八幡神社に。本殿は大きく有りませんが、暗い内部には左右に大きな獅子頭が一對設置されています。

この先から西側に戻り、歴史散策路と名付けられた道を進み、歴史民俗資料館へ。この建物は、大正15年に建てられた、草加小学校の校舎を転用したものだそうです。ガイドさんの案内で、展示資料の時代を追いながら説明され、次にビデオによる草加宿の成り立ちなどの様子を知ることができました。資料館を後にして、東福寺へ。ここの山門、鐘楼、本堂ともに江戸後期のものとか。鐘楼に施された彫刻も立派でした。旧道に戻り、神明宮へ。

此処までが旧草加宿で中華のお店の隣には、草加せんべい発祥の地の石碑、向かいには、曾良の像が有り、道を渡って札場河岸公園へ。此処で昼食、休憩。公園内に、煉瓦造りの甚左衛門塙、子規の句碑、芭蕉像などが有ります。矢立橋を渡り、松並木の松原遊歩道を進み、百代橋交差点で綾瀬川を渡り、伝統産業展示室で休憩。再び遊歩道に戻り、秋桜子句碑等を見ながら東京外環道の下を通り蒲生大橋を渡り一里塚へ。此処からは、綾瀬川に沿って進み、清蔵院へと進む。山門の彫刻は、左甚五郎の作との言い伝えがあるとか？最後の踏ん張り、蒲生駅に無事到着。駅前で休憩、コーヒータム。暑い中、皆さん お疲れさまでした。



曾良の像



歴史民俗資料館



## 草加宿の経緯

1601年に江戸に幕府を建てた徳川家康は、すぐ全国的に街道の整備を行ったが、当時この一帯の街道筋は沼地が多かったため遠回りを余儀なくされ、花俣(現在の東京都足立区花畑)から八条(八潮市)に出て、古利根川と元荒川の自然堤防に沿って越ヶ谷に至る経路でした。1609年になって、大川図書が先頭に立ち、現在の旧街道筋にあたる低湿地を土、柳の木、葦などの草で埋め固め、千住・越ヶ谷間をほぼ一直線に結ぶ新往還道を築き上げました。このときの新道の築き方が「草加」という地名の由来とされています。当時千住・越ヶ谷間には宿場が無く、このルートが完成すると街道沿いに茶店や旅籠屋など旅人相手の商いを目指す人々が集まるようになり、1680年に草加は千住宿に次ぐ2番目の宿、千住宿と越ヶ谷宿の「間(あい)の宿」として取り立てられました。宿場の特徴は、開宿当初、戸数84戸、長さ98間、伝馬人足25人、駅馬25頭と小規模でしたが、徐々に人口が増え、1738年、草加宿総鎮守として市神(神明宮)が建てられると五・十の六斎市が開かれるようになり、近郷商圏の中心としても繁栄するようになりました。1843年調査の『宿村大概帳』によると、南北12町(約1.3km)の規模となり、本陣・脇本陣各1軒、旅籠屋67軒(大2中30小35)となつています。これは、日光道中の城下町である宇都宮と古河を除けば、千住、越ヶ谷、幸手に次ぐ規模です。

## 草加市歴史民俗資料館

建物は、平成20年10月23日付で国の登録有形文化財に登録された、とても歴史のある、趣のある建物です。大正15年、草加小学校西校舎として建てられた埼玉県初の鉄筋コンクリート(RC)造校舎です。草加小学校校舎としての利用は昭和54年度をもって終了し、それから3年後の昭和58年11月1日、今度は草加市の文化財を保護するための施設である「草加市立歴史民俗資料館」として新たなスタートを切りました。

## 草加煎餅

元々この一帯では稲作が盛んに行われており、農家では蒸した米をつぶし丸めて干したものに塩をまぶして焼き、間食として食べていました。江戸期に入り、この地に宿場が開かれ発展していくと、この塩味の煎餅が旅人向けの商品として売り出され、各地に広まりました。その後、利根川流域(千葉県野田市など)で生産された醤油で味をつけるようになり、現在の草加煎餅の原型となつたといわれています。現在、草加市内には煎餅の製造所や販売所が9軒以上に及び、**現在も草加の代名詞**となっています。

「専科一期校友会HPバージョンアップ  
検討会」ホームページ委員(7月2日開催)

出席者 天谷範夫、岡村昭則、  
田中 忠

2Fの印刷室を使って午前中、専科校友会ホームページバージョンアップ検討会は、7名のホームページ委員が参加して開かれました。今回から二期ホームページ委員の参加も考えていましたが、今回は校外授業があるため参加しませんでした。

まずは、8月に3日間わたってホームページ講習会が開かれ、専科一期から3人が参加したことの報告と、マイクロ・シェアポイントデザイナのインストールが順調にゆかない委員へのインストールの仕方の説明を行いました。

専科一期のホームページをお世話いただいたいる鈴木さんから専科二期ホームページ開設を講習会終了後、立上げたこと、それをベースにして専科二期の充実へのステップになれば考えていること等の報告がありました。

これから三カ年は校友会のあの方も不透明なところもあるが、後に続く専科生の参考になるように、専科一期ホームページの充実を図るため、各コースで大勢の方から原稿を集めていくことを確認しました。

各委員から出されたホームページの疑問点を、パソコンを使って検証しました。

「俳句ゆめクラブ」便り 2

四月から句会が始まり、隔月に催す吟行も既に二回経験し、俳句作りにも徐々に慣れてきたところですが、

そろそろクラスの皆さんに作品をご披露したら、ということから六月迄、三回の句会での特選・入選作(梅田先生の選から一部を紹介しします。

〔 四月句会より 〕

|                  |       |
|------------------|-------|
| ハレーの爆音残し花吹雪      | 今村信博  |
| 葉桜やきれいな音のピアノ聞く   | 吉野利美子 |
| 白無垢の花嫁のごと白木蓮     | 伊藤昭子  |
| 黄金週間嬉しい悲鳴孫来たる    | 松野吉光  |
| 里山に母衣をまとひて熊谷草    | 長澤輝子  |
| 古墳より眺める下界初桜      | 菅原昭夫  |
| 木の芽出で山の色をも変へにけり  | 野村侃滋  |
| ジヨギングを点で見下ろす雲雀かな | 岡田時雄  |
| 春の空雄々しく浮かぶ天守閣    | 浅見法子  |
| 孫の手にふんはりと散る桜かな   | 森田啓資  |

〔 五月句会より 〕

|                |       |
|----------------|-------|
| 染まるほど深きみどりの化粧坂 | 岩松忠子  |
| 目に痛き若葉の光天に満つ   | 小林健一郎 |
| 柿の花遠きおもひをひき寄せり | 吉野利美子 |
| 新緑の木の根踏みつまた一歩  | 有村弘   |
| 梅天に和服美人や繁華街    | 松野吉光  |

〔 六月句会より 〕 吟行句会

ゆく春や小洩れ日映す観音堂  
山つつし肩寄せあひてくぐりゆく  
スカイツリー青空を抜き夏来る  
雨上がり青葉目にしむ峠径  
店先に泥のらつきょうも仲間入り  
まぶしさや水引き入れし大田田

・梅田先生の句  
竹の秋人あざむける色となり  
天といふ果てなき舞台揚雲雀

万緑に弾む声ありすべり台  
あぢさゐが大きく見ゆる子の目線  
わが思ひ膨らみきたり花菖蒲  
牛蛙地の底よりの不穩音  
亀の子の甲羅の一寸軽く浮き  
万緑を独り占めして煙草吸ふ  
池めぐり葦切りの声波揺らす  
故里を思はざりしか残り鴨  
木立吹く風にゆれたり夏鶯  
水遊び親子の声の嬉々として  
夏蝶や木陰の先に老夫婦  
すいすいと流れに逆らひ水澄し  
釣り人に大物揚げよと牛蛙  
きらきらと塩から蜻蛉水を打ち

|       |       |
|-------|-------|
| 今村信博  | 小林久美子 |
| 八千代幸男 | 森田啓資  |
| 長澤輝子  | 宮島昭夫  |
| 梅田ひろし | 梅田ひろし |
| 小林久美子 | 伊藤昭子  |
| 浅見法子  | 中島和子  |
| 岡田時雄  | 八千代幸男 |
| 野村侃滋  | 菅原昭夫  |
| 岩松忠子  | 小林健一郎 |
| 瀬戸川公子 | 有村弘   |
| 宮島昭夫  | 瀬戸川公子 |

・梅田先生の句

容赦なく花を挽ぎゆく菖蒲守 梅田ひろし  
むらさきのかくもゆかしき花菖蒲 梅田ひろし  
残り鴨何するでなくこちら向く 梅田ひろし

如何でしたでしょうか、皆様ご存知のクラスメートのイメージ通りの句、それとも全く違う側面を発見した句・・・、いろいろあると思いますが、会員一同、一生懸命作った句ばかりです。梅田先生から俳句を作る意味は自分の生きた軌跡を残すことにある、と教えられました。これからも更にその軌跡を描いて行く我々です、どうぞこれからの成長もご覧下さい。

それでは又次回お会い致しましょう。

2010年9月9日

(会報係・小林健一郎 記)

